

## 謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。

平素より山旅人の旅へご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。  
おかげさまで山旅人は今年で17周年を迎えさせて頂く事となりました。これからも個性豊かなスタッフ達が、多様なニーズにお応えしていきたいと考えております。特にご高齢のハイカーの皆様にも安心して楽しんで頂ける企画をさらに充実させていく予定です。

今後も「ご参加の皆様が元気になって帰って頂ける旅づくり」を合言葉に、社員一丸となって努力して参ります。

本年も皆様にとって素晴らしい年となります様、スタッフ一同心よりお祈り致します。本年も山旅人を宜しくお願い申し上げます。



代表 堀 祐希

### 2月のお勧め四季旅人 日帰りグルメツアー「天然クエ鍋会席」

幻の高級魚「クエ」を食しに行きませんか。クエは本州中部以南に生息するハタ科の魚で、体長約60cm、稀に1m超、30kgにもなる大型魚。群れでなく単独で行動し、潮通しの良い岩礁地帯の底部にいるため、熟練した専門の漁師でさえなかなか釣れない幻の魚と呼ばれています。見かけに反して身は透き通るように白く、脂がのり、上品で深みのある味わいがあり、皮やアラにはゼラチン質が多く含まれます。食通の間では、ふぐや鯛よりうまいと評判の高級魚。クエ料理の代表格は鍋料理。冬季は産卵にむけて濃厚な脂肪を蓄えるため鍋物に適しているのです。まさに今が旬のクエ鍋をいただきに参りましょう。ちょっと1人で食べに行くというのは躊躇してしまうお料理ですが、ツアーならお1人でも気楽にお楽しみ頂けます。

#### 幻の魚を食す

#### 天然九絵鍋会席と千里梅林見学

日時：2月18日(月)

旅行代金：33,000円

出発場所：宝塚8:00 川西8:30 大阪9:10

行程：各地＝割烹爰びず(昼食)＝千里梅林(散策)＝各地(18:00 予定)



### オフィススタッフの現場レポート

#### 山門水源の森ハイキングとマキノ町のメタセコイア並木

11月末、日帰りツアー「山門水源の森ハイキングとマキノ町のメタセコイア並木」ツアーに同行してきました。滋賀県北部にある山門水源の森には県内最大級の湿原があり、サギソウ、ときそう、クサレダマなど貴重な植物の宝庫、かつては炭や薪を作るために利用されていた里山だったそうです。日本海と太平洋、瀬戸内海のちょうど真ん中に位置するため、冬は北陸型で2mを越す積雪があり、夏は盆地型の地形で暑く多湿。そのため寒い気候を好むブナと暖かい気候を好むアカガシが枝を差し交えて同居、多様な植生でさまざまな昆虫や動物達の豊かな生態系が見られます。さらにマキノ町のメタセコイア並木へも訪れます。紅葉したメタセコイアの高木がずらりと並んだ景色は圧巻でした。交通量が途切れる一瞬を狙って皆で記念写真。日帰りの旅なので少し駆け足ではありましたがとても充実した企画です。機会があれば是非皆様もご参加下さい。

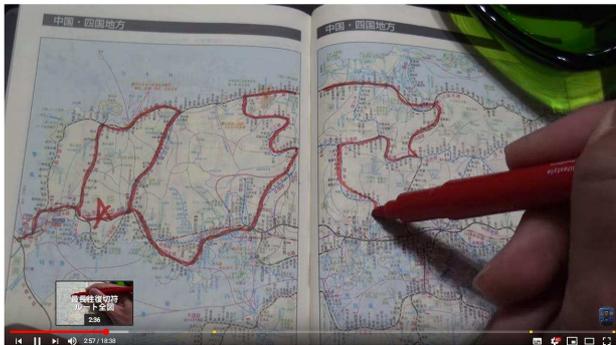
事務所勤務の私にとって普段は電話でしかお話す事の無いお客様と、直接いろいろな会話が出来た事はとても楽しく勉強になりました。ご参加の皆様がお互い初めてお会いする方同士でも、とてもフレンドリーな会話を交わされている雰囲気を見て、改めて「お客様の人柄も山旅人の自慢の一つ」と会話する現場スタッフ達の話思い出しました。そして、オフィスとしてお客様の旅のサポートをしっかりとがんばろうという気持ちをさらに高める事が出来ました。

微力ながら今年もバックヤードでがんばります。引き続きご愛顧の程、宜しくお願い致します。 久保 世里子



# 山旅人スタッフ 今月の小話

自宅での入浴時は携帯で YouTube を見ながら入ることが多い今日この頃ですが、最近よくみるのが鉄道系 YouTuber の「スーツ交通」さん。「最長往復切符・日本一長いきっぷの旅」や「青春 18 きっぷ 1 枚日本縦断・JR 最北端の駅から最南端の駅まで、全部普通列車で移動！」など、実際鉄道に乗車して解説している動画を延々流しているのですが、早口で淡々と語る独特の口調と、鉄道の豊富な知識でつつい延々と見てお風呂でのぼせてしまいます(^\_^;)そして日本の鉄道だけじゃなく、海外の列車や航空機のファーストクラスなど視聴者が興味のあることをうまく取り上げていて飽きることがありません。乗り物好きの方はぜひお暇つぶしにおすすめです(^\_^) 三木 浩嗣



最長往復切符・日本一長いきっぷの旅の動画より

今回は私が行ってみたい場所をご紹介します。長崎の伊王島(いおうじま)です。長崎市内から車で渡れる島で新名所の『アイランドルミナ』という場所。カナダで大人気の体験型イルミネーションが昨年4月に日本初上陸。自然と最新のデジタルアート世界を体験できます。先月あるテレビ番組でコメンテーターの古市憲寿さんがここは絶賛と紹介されていてすぐにネットで検索しましたが、アクセスする人が多すぎるのか、ず〜っとWEBページに繋がりませんでした。テレビの力って本当にすごいですね。こんなに皆さんの興味をそそる場所、益々行きたくなりました！宿泊施設もいいところがあるそうなので長崎を巡って行けたらいいなあ〜！まずは調べてみます。 岡本 哲也



山旅人のパンフレットに掲載されている登山定数についてご紹介します。登山定数とは地図上での歩行時間、距離、累計高低差を基にその山の体力レベルを数字で表したものです。近年登山雑誌やガイドブック等でもよく紹介されているこの登山定数を山旅人でも2019年秋春号から登山ツアーレベルと★表記の右側に定数20等と数字を記載するようになりました。これまで表記してきたレベル表記はガイドや添乗員の主観的な見方だけでしたが、これからはこれに加えて客観的に数字で表したこの登山定数を表示します。定数はツアー期間中のなかで一番体力を使う山行日のデータを記載していますが、この定数からその日の消費カロリーと消費水分量の目安がわかります。以下にその計算式を挙げますのでご参考になさってください。

例 お試し六甲 定数 17 体重 60kg 登山装備 10kg の場合  
■消費 kcal = 定数 17 × (体重 60kg + 荷物 10kg) = 1200kcal  
■消費水分量 ml = 定数 17 × (体重 60kg + 荷物 10kg) = 1200ml

当然、季節や山域が変われば天候、気温、風速、登山道の土質、残雪の有無、岩場の要素、鎖や梯子などの人工物の有無などでかなりの誤差があるので一概に横並びで比較することはできませんが、ある程度の目安として自分が楽しむ山を選定していただくのに役立つかと思います。今後、この定数に理解を深めて頂けるようなツアーも作っていきたくと思っています。 津森 豊

## 《酒まつり》

鍋の美味しい季節です。昨今は「和食にワイン」の普及が聞かれて久しいですが、海外では和食が定着すると今度は日本酒がブームになりつつあります。外国人の杜氏はまだ珍しいですが杜氏に成るべく、酒蔵で働く方は結構多いようです。各地で行われる「酒まつり」。入場方法は大きく2つのパターンがあるようで一つは入り口で料金を払ったら飲み放題、この場合は高い酒の前に行列ができます。もう一つは金券利用。酒ごとに「金券〇枚」とあって、飲みたいものに合わせて金券で支払います。この場合、1枚のところに行列ができるのにはちょっと笑えます。手元に10枚あったら…ぐい呑で10杯はきついですね！普段見かけない小さな蔵元のお酒探しはいかがでしょう。

徳永 恵



# 山旅人スタッフ 今月の小話

自宅にお宝眠ってないですか？

先月小林ガイド千秋楽ツアー時に、自宅で眠っているお宝のお話をし、思いのほか皆様に興味を持って頂きました。今回はそんなお宝の話をしたしたいと思います。ずばり！！「飲まずに置いてあるお酒」です！特に今は年代物のウイスキーの価値がかなり上がっています。当時の購入価格の数倍で転売されている代物も沢山あるのですよ！今から簡単な調べ方をこの記事を読んでいる皆様にこっそりお教えしますね（笑）まずボトルに貼られているラベルを見て下さい。ラベルに書かれている年数がそのお酒の年数になります。残念ながら飲まずに置いていた年数ではありません。そのラベルに書かれている年数が15年以上ならお宝チャンスです。15年以上の数字が書かれているラベルで未開封、さらに箱付きならかなりの高額で買い取りをしてくれる可能性があります。家の中で眠っているお酒がへそくりに変わるかもしれませんよ（笑）もちろん15年以下でも価値が高騰していますのでお宝チャンスです。思い当たる方は一度調べて見てはいかがでしょうか。

浮田 健一

昨年12月1日、神戸の摩耶山で行われた「シム記念 摩耶山マラソン」に息子と共に参加してきました！この時期は各地でマラソン大会が行われていますが、シムマラソンはおそらく日本で最初に行われたロングロードレースではないかと言われています。約140年前に神戸リガッタ&アスレチック倶楽部が開催した旧居留地と摩耶山を往復するロードレースを一部再現したものになり、当時の優勝者であるアレキサンダー・キャメロン・シム氏を讃えて、このマラソン大会が約140年ぶりに復活し、今回で6回目を迎えました。ロングコースは登りあり、下りあり、沢渡りありと変化にとんだ森林コース。ショートコースは山道をかけ登るコース。私が参加したチームランコースでは山道を駆け上ったポイントでラムネの一气飲み、旧天上寺の長い階段を駆け上ったポイントでメロンパンの一气食いなど楽しい障害を乗り越えるコースになっています。ゴールすると参加者に記念Tシャツ、幻の摩耶山カレーや豚汁、スポーツ飲料が振る舞われます。帰りは楽々のロープウェイとケーブルカー。身体を動かすのが億劫になっていくこの時期、ぜひ皆さんも参加してみませんか？久保 世里子

新年明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願い致します。

今月の小話は「勝手に山旅人スタッフフォトコンテスト！」



第一位「哀愁漂う流し目  
三木さん」  
七ツ石山頂にて  
その眼差しの先は…

第二位「スイカ切りの達人  
祐希さん」  
四国剣山にて  
包丁裁きでは右に出る者は  
いません。



第三位「湊沢カフェマスター  
岡本さん」  
湊沢小屋にて  
紅葉とコーヒーはいかが？

横田 和則

私は冬山が好きです。冬山にはこの季節にしか味わえない楽しみがあります。アイスクライミングのまねごとをしたり、雪洞を掘って中で熱燗やホットワインを嗜んだり、風花も見たり、夜には満天の星空を眺め、街中ではあまり見ることが出来ない流れ星が、人工の光が少ない山にいると頻りに流れていることを発見できたりします。そして私の何よりの楽しみは、雪山の無音の世界です。陽が落ち、小屋の明かりがすぐそこに見える場所でさえ、雪が音を吸収し静寂の世界になります。自分の声さえ聞き取りにくくなり、その無音の世界に惹き込まれます。が、すぐに怖くなってテントに急ぎ足で帰るのですけどね(笑) サイモンとガーファンクルの名曲「サウンドオブサイレンス」(ご存知ですか?)とはこういうことを言うのか?と思いましたが、歌詞の和訳を知って「全然違う!」となりました。時には吹雪に遭って引き返したり、雪の降る夜には同行者と交代で雪かきをした経験もあります。今となってはそれも全て楽しい思い出です。冬山が苦手な方も天気の良い暖かい日は近くの山に登りに行きませんか?何か新しい発見が見つかるかもしれませんよ。

近藤 恒毅

